

PRESS KIT



PIAGET

オーナメンタルストーンの芸術

1963年、ピアジェが果敢にもラピスラズリ、ターコイズ、マラカイト、タイガーズアイなどの鮮やかなオーナメンタルストーンでウォッチの文字盤を装って以来、メゾンは、エクストラレガンの重要な要素である色彩に向けた独創的なアプローチで有名になりました。大胆な色彩、ポップアート風のマザーオブパールとオニキス、あるいはラピスラズリと翡翠のモダニストかつ生彩に満ちた構成による予期せぬ大胆な色彩の躍動は、ピアジェが1969年に発表した画期的な「21st Century」コレクションの与えた衝撃をさらに増幅し、ジュエリーウォッチを現代アート作品かつ文化的象徴へと変貌させました。

そして2026年、ピアジェは、その伝統をさらに探求し、過去と現在を結びつけながら、時代を超えたモダニティというその創造的な精神を新たによみがえらせます。そして今年発表される新作ウォッチには、大胆不敵なスタイルでセットされた新しく魅力的なオーナメンタルストーンの数々が彩りを添えて、「色彩の芸術」が再び輝きを放ちます。

PIAGET





This watch, like you and me,
Has no end and no beginning,
Yet it has significance,
For it reminds us there is now,
And it promises tomorrow.
For the woman who is worth the most
expensive watch in the world.

PIAGET
21ST CENTURY COLLECTION

色彩のストーリー

ピアジェがオーナメンタルストーンに魅了されたのは1963年、創業者ジョルジュ＝エドワール・ピアジェの孫であるジェラルド・ピアジェとヴァランタン・ピアジェが、スイスの会社をジュエリーとウォッチメイキング両方に特化した、モダンでファッション性の高いアプローチを採用する国際的なメゾンへと変革しようとしていたときでした。1957年に貴金属と希少素材のみを使用するという決定がなされ、デザインと創造性を解放した画期的な9P薄型手巻ムーブメントの発明によってこのプロセスが可能になりました。この革新的なムーブメントにより、ウォッチの伝説的な薄さを維持しながら、文字盤の拡大とオーナメンタルストーンによる装飾が可能になりました。文字盤はデザインの装飾的な焦点となり、ピアジェはそれを創造的表現の新たな領域として主張しました。

1963年、ファッションが色彩豊かで、若々しい活気に満ち、芸術の影響がいたるところに漂っていた時代に、ピアジェは、メンズウォッチとレディースウォッチの両方を対象に、オーナメンタルストーンをあしらった文字盤を合わせたゴールドジュエリーウォッチシリーズを発表しました。これは大胆な先駆的動きでした。特に当時、ほとんどのウォッチメーカーが市場の大衆化と拡大を目指してスチールに着目していたのに対し、ピアジェはタイムピースを憧れの宝飾オブジェへと昇華させていたのです。新しいウォッチと合わせたゴールドブレスレットは、それ自体が宝飾品であり、後にハウス・オブ・ゴールドとして知られるようになったピアジェの熟練職人によって、入念に手作りされました。それらは、ゴールドの糸で複雑に織り込まれ、シルクのようにしなやかであったり、あるいは手作業で施したエングレーヴィングの質感を帯び、特に現在デコパレス（パレス装飾）と名付けられているものは、オーナメンタルストーンと調和します。

PIAGET

ゴールド、魅惑、そして卓越性の崇拝

つまりは、ピアジェのタイミングが完璧だったのです。新しいウォッチは、1960年代と70年代を特徴づける劇的な社会的、文化的変化を予測し、それに応えることで、その時代の気分を捉えていました。これらウォッチのカジュアルな華麗さ、さりげない豊かさ、形式にとらわれない解放感は若くして富を得た、新しい富裕層の顧客層の好みに合っていました。その中には、有名なジェットセッターたちが集まるイヴ・ピアジェの国際的サークル、ピアジェ ソサエティのメンバーとなったメディア、芸術、映画界のセレブリティも含まれていました。同時に、自然の痕跡が残るオーナメンタルストーンは、当時盛んだった自然界への関心と調和する素朴な魅力を放っていました。60年代の未来主義と共鳴する、その驚くべき原始的な美しさには、別世界や超自然的な感性も帯びていました。

これらのモデルの成功により、ピアジェは革新と創意工夫の先駆的な道を追求するようになりました。オーナメンタルストーンの多様性が、パーソナライゼーションへ向けたメゾンの扉を開き、20世紀後半のデザイン界を席卷した個性崇拝を再び先取りしました。1960年代半ばに導入されたスタイルセレクターは、セミオーダー サービスであり、ゴールドブレスレット、ゴールドまたはオーナメンタルストーン (タイガーズアイ、ラピスラズリ、マラカイト、オパール、マザーオブパール、コーラル、ロードナイト、ハードルビー) のいずれかを使用した文字盤、そしてさまざまなスタイルのローマ数字またはアラビア数字から、お客様独自のジュエリーウォッチを構成できました。最後に、ケースと文字盤を囲むベゼルのダイヤモンドのカットとサイズを選択しました。

それ以来、ピアジェの色彩の芸術は、オーナメンタルストーンのカット、スライス、研磨の熟練技術とともに勢いを増し続けています。ストーンを要求される薄さ (0.4mmまで) と形状精度にカットし、光沢のある輝きに磨き上げて、個々の模様を際立たせるには、材料と技術に対する並外れたスキルと熟知が必要です。この工程には、破断の危険が伴い、破損のリスクが高くなります。

PIAGET





2026年 - 生きているレガシー

今日、ピアジェの色彩の芸術は、メゾンの歴史とつながる3つの印象的な色彩設計を通して輝きを放っています。ピアジェのシグネチャーカラーへのオマージュであるブルーの色合いが、ストラップ付きSixtie、ピンクゴールド製Piaget Polo 36mm、またはブルークォーツ文字盤を備えたAndy Warhol ウォッチを彩っています。一方、コレクターの間で人気の高いもうひとつのAndy Warhol モデルに選んだ文字盤とケースは、温かみのある赤みがかったブラウンのブルズアイ、きらめくシャトヤンシー効果、スタッズの映えるクル・ド・パリ ケースです。ホワイトゴールドバージョンは、2024年に発売されました。

PIAGET

2023年に再導入されたカフウォッチとスウィングング ソートワールウォッチに続き、ハイジュエリーにアレンジした新たなSixtieでは、1970年代の象徴的なカフウォッチを再解釈しています。イヴ・ピアジェお気に入りの、ピアジェ ソサエティを反映するストーンのひとつ、多彩な色合いのオパールをSixtieの柔らかな台形フォルムの中に取り入れました。ピアジェの名高いデコ パレス（パレス装飾）を手作業でエングレーヴィングした、遊び心のあるアシンメトリー。自己表現の火花を再燃させたピアジェは、1972年に製作した懐中時計「Kimono」を、3本のスウィングングペブル ネックレスとして刷新しました。彫刻的で非対称な小石の形をした3本のウォッチは、擦り合わせたゴールドチェーンの下で揺れ動きます。それぞれがオーナメンタルストーン、ゴールドを帯びたタイガーズアイ、若草色のヴァーダイト、またはピーターサイトから巧みに彫り出され、ケースと文字盤はストーンと完全に一体化しており、ウォッチを触り心地の良い私的な宝物に変えています。

PIAGET





しかし、メゾン ピアジェは、記録破りの
2mmという薄さにオーナメンタル
ストーンを組み込んだ「アルティプラノ
アルティメート コンセプト ツールビヨン」を
発表し、ハイウォッチメイキングの
技を称えます。

ストーンはムーブメントに組み込まれた部品に取り付けられるため、ストーンに
損傷を与えることなく残留物を除去する洗浄工程が必要になります。0.15mmの
針（ピアジェが使用する最細針）を使用して行う作業であり、非常に慎重な
取り扱いと細心の注意を払った入念な組み立てを必要とします。ピンクゴールドを
あしらった、豊かでまるやかなブラウンモデルには、ハニーカラーのタイガーズアイが
組み込まれており、1960年代のスタイルセレクターを再現したメゾンは、
4色から選べるケースと、タイガーズアイ、ブルーソーダライト、翡翠、オニキスの
4種類のオーナメンタルストーン、およびその他のパーソナライズされたディテールも
提供しています。ピアジェが誇る2026年の豊かなオーナメンタルストーンの
伝統にふさわしい、胸躍る大胆なフィナーレを飾ります。

PIAGET

ピアジェについて

ピアジェの独特の魅力はその大胆なスタイルにあります。1874年の創業以来受け継がれるクリエイティブに溢れるスタイルは、華やかな時計やジュエリーに体现されています。大胆な創造性に対する情熱は、スイスのジュラ山脈にあるラ・コート・オ・フェで生まれました。メゾンの創立者であるジョルジュ=エドワール・ピアジェが、その村にある家族の農場の中に最初の工房を設け、高性能ムーブメントの制作をはじめたのは1874年のことでした。このときから時計職人としてのピアジェの名は広く知られるようになります。パイオニア精神を大切にしているピアジェは、1950年代後半に薄型ムーブメントの設計・製造に乗り出しました。メゾンを代表する「アルティブラノ」の礎石となるそのムーブメントはピアジェの代名詞のひとつになり、時計製造の世界に確かな足跡を残しました。同時に、ピアジェは常に創造性と芸術的な価値に重きをおき、ゴールドと色とりどりのカラーの融合、新しいシェイプ、高価な宝石、オーナメンタルストーンの文字盤といったスタイルを受け継いできました。卓越したクラフツマンシップのもと、メゾンは「アルティブラノ」、「ピアジェ ポロ」、「ライムライトガラ」、「シックスティ」、「ポセション」、「ピアジェ サンライト」、「ピアジェ ローズ」、「エクストリームリーピアジェ」などの素晴らしいクリエイションを創り続けています。

PIAGET

WWW.PIAGET.COM
WWW.FACEBOOK.COM/PIAGET
WWW.INSTAGRAM.COM/PIAGET/
WWW.PINTEREST.COM/PIAGET/
WWW.YOUTUBE.COM/PIAGET
WWW.LINKEDIN.COM/COMPANY/
WEIBO.COM/PIAGET

P

